





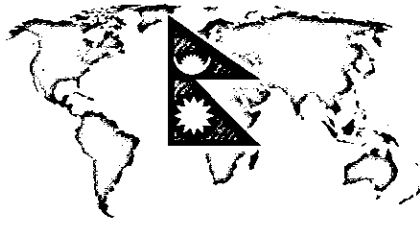

 JICA
 ジャイカ
 JICA四国 平成19年度 教師海外研修
授業に役立つ
国際理解教育実践報告書
 —みんなに届け! 世界の声—

The Project for Improvement of
 Kathmandu Water Supply Facilities
 April, 2004

 From
 The People of Japan

JICA LIBRARY

 1188883 [1]

JICA
 116
 36
 SKC
 LIBRARY

四国支
 J R



はじめに

今年度は、四国管内の8名の先生方に、ネパールにおける国際協力の現場へ視察に行ってくださいました。

昨年同様、学校の夏休みを利用した短期間の視察ではありますが、事前の準備をよく行い、青年海外協力隊員の活動現場やシニア海外ボランティア活動状況等、JICAの国際協力の現場を精力的に見ていただき、その内容やネパール文化を各教育現場で紹介し、国際理解を深めていただくことをお願いしました。

当機構当支部も、開発教育支援事業を進めていくうえで、本プログラムが重要な役割を担っていると認識しており、同行職員を派遣して研修効果の促進を図っています。

このたび、ネパールでの海外研修から帰国後、先生方のご協力により、教室の中での授業実践報告がとりまとめられ、国際理解教育および開発教育の参考事例に加えていただくことができることになりました。この実践報告は、先生方がネパールの事情をより具体的に紹介されているだけでなく、異文化理解に対するキーワードや、多文化共生に対する有効な示唆が含まれています。

学校での授業実践を見学させていただいた職員からは、ネパールの厳しい水事情や教育事情が上手に伝えられ、効果的に総合学習の時間等を活用されていたと聞いておりますし、当たり前のように与えられているかのような教育がどんなに大切で、ネパールの生徒たちがどんなに教育を渴望しているかということが直接伝わってくる授業だったと伺っています。また、参加者や教育関係者からもこれなら授業に活かせるとの高い評価を得ることができました。

2月3日には、海外研修および授業実践の報告会を公開で発表し、成功裡に開催することができました。

本報告集を、教育現場で有効に活用していただき、今後の国際理解に役立てていただけますようお願いいたします。

最後に、本報告のとりまとめにあたった、社団法人青年海外協力協会中国支部をはじめ関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成20年2月

独立行政法人 国際協力機構 四国支部
支部長 佐々木 直義

目次

はじめに	1
------	---

教師海外研修とは？

■ 教師海外研修の目的／応募資格／派遣期間／募集時期／研修国概要	4
■ 教師海外研修のながれ	5
■ 同行職員より	6
■ 海外研修日程表	7
■ 参加者氏名	8

研修を活かした授業実践例 (タイトル／対象学年／実践者)

【小学校・中学校編】

■ ① ネパールともっと×5 友だち!	小学校2年生／波多野拓有	10
■ ② ネパールに行ってきました～サンガイ・ジュネ・コラギ～	小学校1・2・6年生 中学校1～3年生 高校1年生／渡部 陽子	15
■ ③ ネパールの子どもたちから自分の生き方を考えてみよう	中学校2年生／織田 祐恵	24
■ ④ 世界に目を向け、自分の暮らしについて考えよう	中学校3年生／榎 裕美子	28

【高等学校・高等専門学校編】

■ ⑤ ネパールを題材に「キャリア教育」を考える	高校1～3年生／安藤 千速	34
■ ⑥ ネパールの現状から学ぶ	高校1・2年生／田村 芳貴	38
■ ⑦ 日本の中の蛙、大海を知ろう!	高校1・3年生 社会問題研究部員／川村美千代	43
■ ⑧ ネパールを知っていますか？日本を知っていますか？	高校2・3年生／福井 智史	49

参考資料

■ JICAはこんなこともしています!	54
■ お問い合わせ先	55



1188883 [1]



教師海外研修とは？

この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の下に提供されたものを使用しています。

🌐 教師海外研修の目的

平成14年4月より「総合的な学習の時間」が本格導入されました。JICAは、諸外国との関係や異文化理解の学習について、国際協力を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、積極的に支援を行っています。

この教師海外研修は国際理解教育・開発教育に関心のある先生方に、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な協力活動を視察してもらい、帰国後に授業等を通して生徒たちの国際理解を推進していただくことを目的としています。

🌐 応募資格

50歳以下で所属長または教頭の推薦が得られる方
(JICAから海外に派遣された経験のある方は除きます)

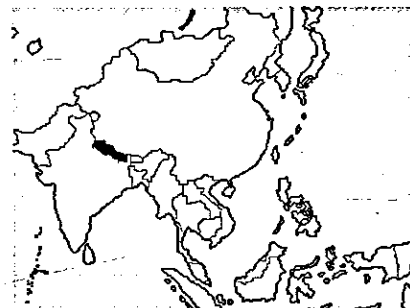
🌐 派遣期間

約10日間(毎年7月下旬～8月上旬に実施:ただし、派遣国の状況により変更となる場合もあります)

🌐 募集時期 毎年4月上旬～下旬

🌐 研修国概要

「ネパール」



- (1) 正式名称 (和文) ネパール
(英文) Nepal
- (2) 政 体 制憲議会選挙後に決定
- (3) 首 都 カトマンズ
- (4) 面 積 14万7000km²
- (5) 人 口 2,589万人(2005年/2006年度 政府中央統計局推計)
- (6) 民 族 インド・アリア系、モンゴロイド系、チベット系など多岐にわたる多民族国家。
主な民族だけでも20以上ある。
- (7) 言 語 公用語:ネパール語。ただし、各民族内ではその民族固有の言語が使われている。
- (8) 宗 教 ヒンドゥー教(国教)

【参考】「JICA HP-短期滞在者用国別情報」国際協力機構 「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省

教師海外研修のながれ

国内での事前研修

☆第1回派遣前研修:平成19年6月30日(土)~7月1日(日) @高知県

【1日目】昨年度参加者の体験談やネパール事情などを聞きながら、海外研修に向けてやるべきことを確認しました。

【2日目】「JICA四国 国際理解教育セミナー」と同時開催。昨年度研修参加教員が帰国後に行った授業を紹介したり、協力隊経験者の体験談を基にした授業案の作成を通して参加型学習について学びました。



☆第2回派遣前研修:平成19年7月28日(土)(海外研修出発日前日) @大阪府
出発前の最終確認を行いました。さあ!いよいよ現地に向けて出発です!

海外研修



平成19年7月29日(日)
~8月8日(水)



各校での授業実践



授業実践報告会



☆授業実践報告会:平成20年2月3日(日) @高知県

「JICA四国 国際理解教育セミナー」と同時開催。海外研修の様子や帰国後、海外研修の体験を活かして実践した授業の様子を紹介しました。また様々な職種の参加者たちと意見交換を行い、充実した研修会となりました。

🌐 同行職員より

本研修は、参加した教師の皆さんが、海外で体験したことを基に、授業等を通じて生徒たちに還元することを目的としています。参加の先生方は、「異文化理解や国際協力等をどうやって生徒に伝えようか」と頭に思い描きながら、題材探しの旅に出ました。

ネパールと聞くと、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？

お釈迦さま誕生の地？ヒマラヤ登山？

しかし、今のネパールは、仏教徒の割合はそれほど多くなく、排気ガス等の都市問題に悩んでいる面も持っていたりします。

時間や治安状況により場所的な制約はありましたが、参加者の皆さんは、たくさんあるネパールの顔のうち、少なくともいくつかの顔を見ることのできたのではないのでしょうか？

今回は、JICAプロジェクト視察、シニア海外ボランティア活動視察、青年海外協力隊隊員活動視察、学校訪問等を実施することができました。

学校訪問では、「一番ほしいものはなに？」との問いに、生徒から「Education!」と返ってくるのが多く、世界的に見れば当たり前と与えられるものではないということ

をあらためて思うとともに、やはり先生方は嬉しかったようでした。

四国8人の“ふれあい”の記録、ご覧ください。ナマステ！


市民参加協力調整員 山本 高弘

海外研修のひとコマ



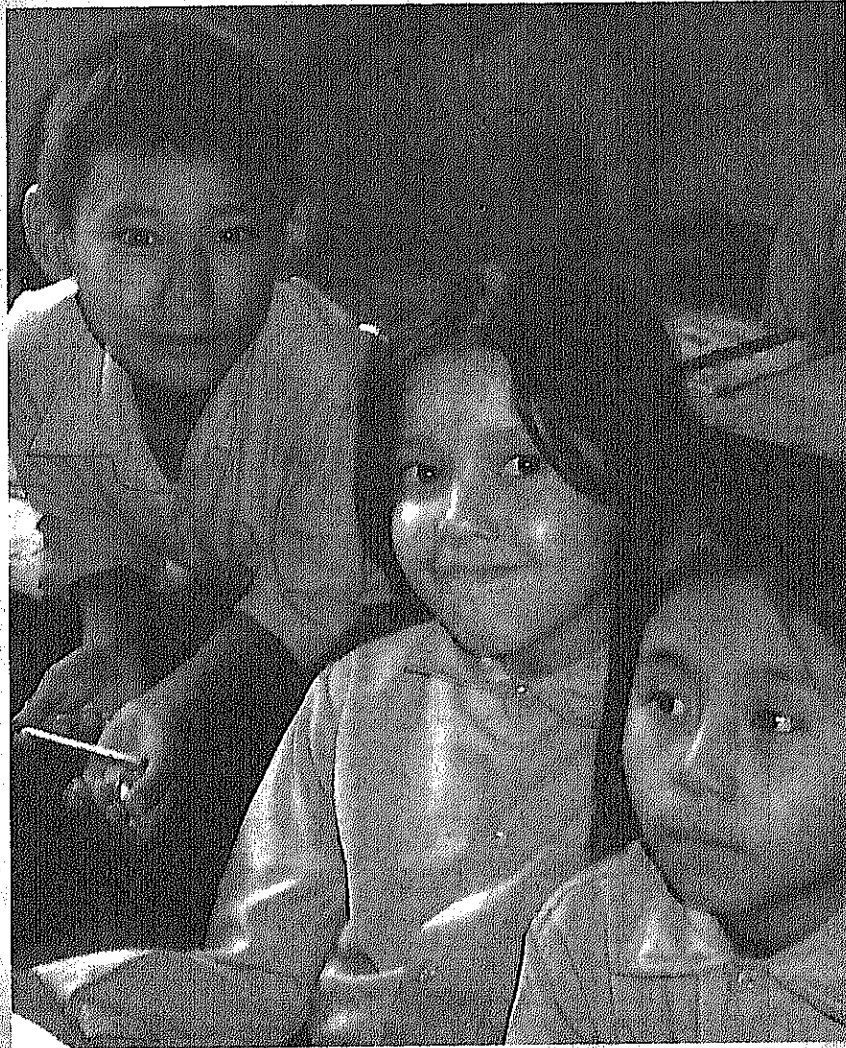
海外研修日程表

月日	曜日	訪問先	訪問概要
7月29日	日	関西国際空港発 バンコク(タイ)経由	
7月30日	月	カトマンズ(ネパール)着	
		JICAネパール事務所	・ネパールにおけるJICA事業概要等 安全にかかる諸注意、ネパール語講座
7月31日	火	JICAネパール事務所	・ネパールにおける国事情/教育事情の説明 ・教育制度、シラバスについて ・教員養成/研修について ・教科書の印刷所で印刷技術を指導する シニア海外ボランティアの活動
		カリキュラム開発センター 国立教育開発センター ジャンク教材センター (シニア海外ボランティア活動場所)	
8月1日	水	小学校(4校) ナバジョティ初等学校/ブルチョーキ初等学校 バクレチャップ初等学校/シッデショール初等学校	・ネパール人教師による授業の見学、 青年海外協力隊員による授業支援活動
8月2日	木	JICAネパール事務所 水供給施設 (マノハラ浄水場、公共の水汲み場など)	・ネパールの上水道プロジェクト概要 ・建設にあたり日本も協力した浄水場 ・公共の共同水場
8月3日	金	非正規教育センター 非正規教育プロジェクトの現場	・非正規教育プロジェクトの概要 ・プロジェクト視察、生徒・教師との意見交換
		JICA帰国研修員同窓会事務局 ホームステイ開始	・ホームステイプログラムの説明
8月4日	土	ホームステイ(各家庭)	・受入家族とともに
8月5日	日	ホームステイ(各家庭)	
8月6日	月	キルティプール園芸センター(農園)	・青年海外協力隊員から指導を受けている 果樹(柿、梨)栽培農家の見学
		市内見学	・授業の題材収集
8月7日	火	JICAネパール事務所	・海外研修の報告
		カトマンズ(ネパール)発 バンコク(タイ)経由	
8月8日	水	関西国際空港着	

 参加者氏名

氏名	県	所属学校名
織田 祐恵	香川	高松市立木太中学校
福井 智史	香川	高松工業高等専門学校
川村 美千代	徳島	鳴門市立鳴門工業高等学校
渡部 陽子	愛媛	愛媛県立宇和島学校
槇 裕美子	愛媛	東温市立川内中学校
田村 芳貴	愛媛	愛媛県立伊予農業高等学校
波多野 拓有	高知	高知市立追手前小学校
安藤 千速	高知	高知県立高知丸の内高等学校



*敬称略



研修を活かした授業実践例

【小学校・中学校 編】

教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますが、ご了承ください。

	Nepal 01	ネパールともっと×5友だち!	波多野 拓有 高知県高知市立海手前小学校
	●実践教科等/生活科 ●時 間 数/15時間	●対象学年/小学2年生 ●対象人数/46名	 図書室にあった本のネパール人の少女を探しに行く、という目的を持ってネパール研修に参加したアイデアと行動力が素晴らしい。国語の教科書を活用した点や、子どもの興味をひきつける導入方法も参考にできます。

※カリキュラム

【実践の目的】 本校では総合的な学習の時間の中で、週に2時間英語の授業が行われている。総合的な学習の位置付けが無い1・2年生においても生活科、または国語科の学習内容の一部として英語活動が週1時間程度取り入れられている。その中では英語を言語として学ぶことはもちろん、英語圏の国の文化理解についても体験型の学習を行っている。確かに、英語は母国語ではなくとも公用語として通用する国があるなど、世界の多くの地域で話されており、日本においても英語に触れる機会は近年増えてきている。したがって、英語を学ぶことは生活上役に立つことが多いと考えられるが、日本から見ての外国像が英語文化に偏ってしまうことへの不安も感じなくはない。そこで、ネパールで体験してきたことを教材に、英語文化以外の異文化理解を通して国際理解教育を推し進めていきたいと考えた。さらにそこから、児童が世界の様々な国の文化を調べ、それをお互いに発表しあうことによって、より幅広い世界観を持たせようと今回の学習を設定した。

※授業の構成

時限	テーマ(ねらい)	方法・内容	使用教材
1 2	ネパールの子どもたちと暮らし【生活科】 ネパール語の挨拶や学校の様子、遊びや家での仕事など、子どもたちの暮らしぶりを知ることでネパールについて親しみと関心を持つ	①世界地図でネパールと日本の国の位置を知る ②ネパール語のあいさつを学ぶ ③学校の様子を知る ④お手伝い(家庭での仕事)について知る ⑤遊びを知り、実際にやってみる	・世界地図 ・研修中配布資料 ・書籍「旅の指さし会話帳ネパール」 ・写真、映像、現地で頂いた教科書やテスト用紙、横先生制作DVD ・写真、映像
3 5	ネパールの国の特色と文化【生活科】 国の特色や文化を知ることから、日本との違いや共通点を感じ、ネパールへ親しみを持つ	①ネパールとその周辺の国を知る ②国の特色を知る ③ネパール語で自分の名前を書いたり、数字を読んだりする	・世界地図 ・写真、映像、JICA資料、現地通貨 ・絵葉書、現地調達壁掛け資料など ・書籍「旅の指さし会話帳ネパール」 ・現地調達書籍 「にほんごをはなしましょう」
6 7	ネパールと日本のつながり【生活科】 ネパールに対する青年海外協力隊やシニア海外ボランティアなどのJICAの事業やNGOや個人、団体、国の支援などについて知り、ネパールと日本との深いつながりを意識する	①日本がネパールに対し、何のためにどんな支援を行っているかを知る ②日本とネパールのつながりを知る ③就学支援の必要性とその内容を知る	・写真、映像、研修中配布資料 ・日本・ネパール国交樹立50周年記念DVD ・JICAリーフレット 「学校に行きたい!」
8 9	ネパールのおやつ【生活科】 ネパールのおかしと飲み物を自分たちで作り、味わうことでネパールの食文化への理解を深める	①「ペダ」の作り方を知り、グループで協力して作る ②「フルーツ・ラッシー」の作り方を知り、グループで協力して作る ③できた「ペダ」と「フルーツ・ラッシー」を味わう	・書籍「私のネパール菓子」
10 15	世界の国について調べよう【国語科】 ネパールについて学習した内容を基に、自分たちも任意の国の国旗や特色、文化を調べていくことで、さらに異文化への関心と理解を深める	①ネパールについて書かれた本の読み聞かせを聞く ②学校の図書室にある本の世界が現実の世界とつながっていることを知る ③任意の国を選び、国旗や国の特色、文化などについて調べ、ワークシートにまとめる ④それぞれがまとめたものを発表し合う ⑤青年海外協力隊OBの話聞き、異文化への関心と理解を深める	・書籍「世界の子供たち10ネパール」

◆授業の詳細

1・2 時限目 **ネパールの子どもたちと暮らし**

- ①世界地図でネパールと日本の国の位置を知る。
- ②ネパール語のあいさつを学ぶ。(ナマステ、ナマスカール、サンチャイチャ(タバイライ)、ダンネバード、モタウヌボ…)
- ③写真や映像、実物などから学校の様子を知る。(教室、学習の様子、教科書、給食、運動場、遊具、テストなど)
- ④写真や映像から子どもたちのお手伝い(家庭での仕事)について知る。(子守り、水くみ、洗濯、児童労働など)
- ⑤ネパールで行われている遊びを知り、実際にやってみる。(表裏じゃんけん、カバディ)

児童の感想より

わたしはネパールの子どもの中には学校に行けない子どももいてかわいそうと思いました。

ネパールの子どもは家のしごとの水くみやせんたくがすごく上手だったのでえらいと思いました。

ネパールでは学校とようちえんがつながっているなんてびっくりしました。

ぼくは男どうしと女どうしがたを組むとは知りませんでした。みんななかよしなんだなあとと思いました。

ネパールはおどりが好きだなんてたのしい国だと思います。わたしもおどりは大好きです。

わたしは「カバディ」がおもしろかったです。どうしてかと言うと、あいてがまもる人のだれをタッチするかわからなくてドキドキするからです。

うらおもてじゃんけんはまるでパーのじゃんけんみたいです。カバディもけいどろにほんとうによくにっています。

ネパールにはじゃんけんがないなんて知りませんでした。その代わりに、おもてうらじゃんけんがありました。おもしろいあそびがあるんだなと思いました。



ナマステはべんりなあいさつなのです



エク、ドゥイ、ティン! かちはだれかな?

<所感>

今回の研修での単なる観光では得られない貴重な体験を自分が感じたままに子供たちに伝えたいと考えて授業を構成することにした。対象が小学校の2年生であり、あまり専門的なことを伝えようとしても無理があるので、ネパールの子どもの姿や様子を中心に写真や映像、音声や実物を交えて伝えることにした。

子どもたちの世界観はやはり欧米圏に偏ったものであり、英語文化が主な外国像であった。そんな中、ほとんど未知の国であるネパールの生きた情報はとても興味深かったようで毎回の授業を楽しみにしてくれていた。加えて吸収力も強いので、ネパールの挨拶を教えると、授業の始めには「ナマスカール、サンチャイチャ〜」と教室に入って来、終わりには「ナマスカール、ダンネバード」と両手を顔の前で合わせて教室を出ていくのである。この他にも、ネパールのさまざまな国の様子や特色、文化を伝えたいが、どれも素直に受け入れてくれていたのがうれしかった。

3~5 時限目 **ネパールの国の特色と文化**

- ①ネパールとその周辺の国、およびその位置関係を知る。
- ②国の国旗や特色、文化を写真や映像、音声を通して知る。(国旗、国歌、国鳥、国花、言語、人口、面積、民族、地形、気候、食事、エベレスト、ブッダ、お寺、お金、楽器、町の様子など)
- ③ネパール語の文字と数字を知り、自分の名前を書いたり、数字を読んだりする。

児童の感想より

バイクとか車とかバスがどうろを通ってきつきつになりながら行っていたのでびっくりしました。あんなのでどうしてこうつうじこにならないんだろうと思いました。

車でいっぱいのだうろをネパールの人たちがへいぎでわたっているのがびっくりしました。

バイクに4人もっていて、けいさつにつかまらないってすごいなと思いました。

ぼくはネパールの人が力もちとわかって、へーと思いました。年よりの女の人がすごくおもしろな草をもっていました。すごびっくりしました。

ぼくはネパールのはいいなと思いました。わけはエベレストがあるからです。

今日のべん強で大きく3つのことがわかりました。1つ目はみちばたでお店をやっていること。2つ目はどうろに自てん車やバイクや車があふれそうなことです。3つ目は朝からばんまでほとんど食べるものがカレーなことです。

いっぱいカレーを食べることにびっくりしたし、毎日カレーを食べていることにもびっくりしたよ。

波多野拓有
報告書①

渡部 陽子
報告書②

織田 祐恵
報告書③

植 裕美子
報告書④

安藤 千速
報告書⑤

田村 芳貴
報告書⑥

川村 美千代
報告書⑦

福井 智史
報告書⑧

参考資料

ネパールのおさつにどうぶつがのっていることがわかりました。

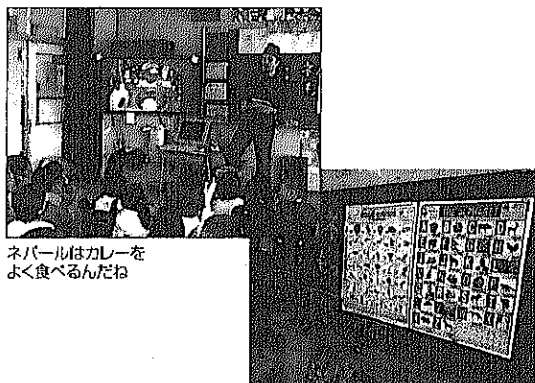
ネパールもインドとおなじで牛がかみさまだったってことがわかってうれしいです。

ネパールの字がむずかしかったけど、自分の名前と今日の日にちを書きました。もっとネパールと友だちになった気がするよ。

ネパールと日本はいっしょの数字と思っていたけど、ちがうことがわかりました。ネパールの1という数字が日本の9という数字ににているなと思いました。

ネパールの九九もとてもむずかしかったです。カレンダーの数字がだんごににっていました。

もしもネパールの人に会えたら「ナマスカール」「サンチャイチャ」と言いたいです。



ネパールはカレーをよく食べるんだね

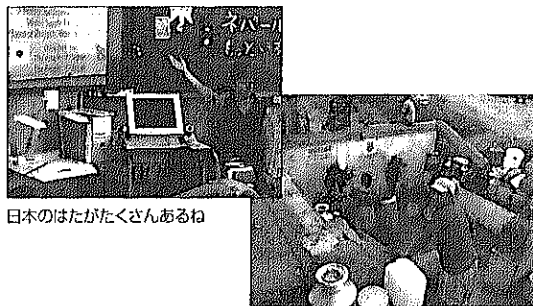
ネパールの文字をつかってみたよ

〈所感〉

文字を教えた時には、家でも熱心に書いてくる子がいたり、数字の数え方など私は「エク、ドゥイ、ティン」しか覚えていないが、40まで数えられるようになったと報告してくれる子もいたりした。また、お菓子と飲み物作りについてもレシピを配ったら家でその日に作った子もいて、子どもたちの新しい世界への関心の高さに驚かされることが多くあった。

6・7 時限目 ネパールと日本

- ①現地で撮影した青年海外協力隊やシニア海外ボランティア、JICA所員などが活動している写真や現地で購入した資料から日本がネパールに対し、何のためにどんな支援を行っているかを知る。
- ②DVDを視聴し、過去から現在までの日本とネパールのつながりを知る。
- ③JICAリーフレット「学校に行きたい」を読み、就学支援の必要性和その内容を知る。



日本のはたがたくさんあるね

水はとても大切なんだね

児童の感想より

ネパールと日本は友だちだなと思いました。なぜかと言うと、日本からいろんなものを送っているからです。

わたしはネパールで日本がかつやくしていることがわかりました。

ぼくは日本の人がいっぱいものを作ったことがすごいなあと思いました。ネパールと日本はなかよしてわかってうれしかったです。

ネパールにあるしんごうきも日本からおくられてきたことがわかりました。

ネパールにはネパールの人だけと思っていたけど、日本の人もたくさんいることがわかりました。

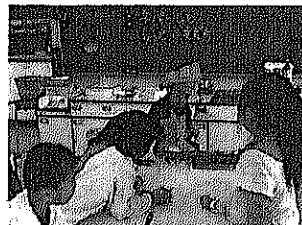
ネパールにきょうかして学校や工場の手つだいをしている日本人はえらいと思いました。

ネパールのふつうのおふろの水がなにも入れていないのにきたない色だからかわいそうに思いました。そんな水をきれいにするのに日本の人ががんばっているのがすごかったです。

学校に行けなくてはたらいている子どもがたくさんいるんだなとしてかわいそうに思いました。

8・9 時限目 ネパールのおやつ

- ①「ペダ」の作り方を知り、グループで協力して作る。
- ②「フルーツ・ラッシー」の作り方を知り、グループで協力して作る。
- ③できた「ペダ」と「フルーツ・ラッシー」を味わう。



おいしくできるかな？

児童の感想より

おかしを作るのがとてもむずかしかったけど上手にできてよかったです。おかしはともちもちしておいしかったです。お家でもいつか作ってみたいです。

わたしはペダはあんまり好きではないけど、フルーツ・ラッシーはとてもおいしかったのですきです。

ペダは作るのがむずかしかったです。でもネパールの人は牛にゆうだけでもっと時間をかけて作るのでもっとむずかしいんだなと思いました。

ネパールにはおいしくないおかしがあるとっていたけど、おいしいのがたくさんあるんだなと思いました。ペダっていうおかしはとてもおいしかったです。

このおかし(ペダ)いがいにはどんなおかしがあるのかな。また作ってみたいです。

10~15 時間目 世界の国について調べよう

- ①ネパールについて書かれた本「世界の子どもたち 10ネパール/モヒタ夢の旅」(偕成社:1986年3月発行)の読み聞かせを聞く。
- ②指導者が上記の本に紹介されている人をネパールで探し、本人には会えなかったものの関係者や本に写っていた人の一人に出会えたことを知り、学校の図書室にある一冊の本の世界が現実の世界とつながっていることを知る。
- ③図書室にある世界各国を紹介した本から任意の国を選び、国旗や国の特色、文化などについて調べ、ワークシートにまとめる。
- ④それぞれがまとめたものを発表し合い、世界中には様々な国があり、いろいろな文化をもつ人々が暮らしていることを知る。
- ⑤ボリビアに派遣された青年海外協力隊OBの話聞き、さらに異文化への関心と理解を深める。

児童の感想より

先生が本にのっている人たちに会っていたのですごいと思いました。

先生がネパールから買って来たものを見せてくれました。ぼくが一番ほしいと思ったのは、あやつり人形です。とくに顔が4つあるのがよかったです。もし今度ネパールに行く時があったら顔が4つあるのを買いたいです。

今日はじめてカレーのもとの粉を見れたのでうれしかったです。とてもからそうな色でした。そのつぎにお茶の粉を見ました。なんで粉にしているのかなあと思いました。

ネパールのことがすごくわかりました。図書しつでネパールの本をたくさん読んでみたいです。

ぼくは今日、図書しつでいろいろな国を調べました。ぼくはタイについてしらべます。

ぼくはせかいの国が200しゆるいもあるってびっくりしました。

せかいにはいろいろな国があってそれぞれちがうということがわかりました。

国にはいろいろなないみがあることがわかりました。もっとしらべてみたいです。

フィリピンではスーパーなどでえい語でも通じるけど、フィリピン語でしゃべると安くしてくれることがあるそうです。びっくりしました。

オランダは自てん車王国です。みんながのっています。電車にも自てん車をのせられます。



ここに写っている人に会うことができました



国旗にもいろいろな意味があるんだね

〈所感〉

授業後半では、世界の様々な国について調べようと、学校図書館の世界の国を紹介した本を中心に国旗やその意味、国の特色や文化をワークシートにまとめる活動を行った。2年生には少し難しい課題ではあったが、興味深く調べまとめ上げたことを交流しあうことで世界には数多くの国と民族、そして文化があることがわかってくれたように思う。最後の発表は参観日と兼ねることで保護者にも見てもらうことができた。加えてゲストティーチャーとして青年海外協力隊OBでJICA四国の高知県国際協力推進員の松尾泰輔さんにお越し頂き、活動をされたボリビアの様子をお聞きすることができた。民族衣装に身を包んだ松尾さんの話を「コンドルは飛んでいく」の曲とともに子どもたちはとても興味深く聞き入っていた。

報告書① 波多野拓有

報告書② 渡部陽子

報告書③ 織田祐恵

報告書④ 榎裕美子

報告書⑤ 安藤千速

報告書⑥ 田村芳貴

報告書⑦ 川村美千代

報告書⑧ 福井智史

参考資料

◆成果と課題

ネパールと聞くと私自身が小学生だった25年ほど前、非戸を掘るためとしてユニセフか何かの募金をしていたことを思い出す。その後、ネパールには世界最高峰のエベレストがあることを知ったぐらいで何ら接点がなかったのだが、今回JICAの教師海外研修に参加させて頂くことになり、急速にその距離が縮まることとなった。

私は今回の研修で訪れたネパールが大好きになってしまった。いや、ネパールの人が大好きになったと言ったほうがいいのかも。すべての人に出会ったわけではもちろんないが、やさしく、穏やかで礼儀正しいネパールの人たち、そして明るく元気で瞳の澄んだネパールの子どもたちに心が洗われる思いがしたのである。

一方、訪れたネパールは四半世紀たった今でも近代化が進んでいるとは言えない状態だった。飛行機は飛んでいるし、車やバイクは道にあふれている。携帯電話だってある。しかし、道路は荒れており埃だらけ、水道設備が整ってなく、公衆の水場に人々が大きな水瓶やプラスチック容器を持って並んでいる。水道設備がある宿泊先の高級ホテルだって、浴槽に水を貯めると黄色い入浴剤を入れたような色でももちろん飲めはしない。他にも路上でトウモロコシを焼いて売っている人々、道端に積み上げられたごみ、長い行列ができるガソリンスタンド、我先を争って自転車に車やバイクが道路に進入して身動きの取れなくなる交差点、などにかく国中が混沌としている。現在の勤務校では青少年赤十字の活動をしており、募金にも取り組んでいるのだが、今もなおその目的がネパールに非戸を、そして学校を作ろうとされていることに十分納得してしまった。今回訪れる機会の無かった地方ではさらに近代化が進んでいないことは容易に想像できる。しかし、そこでは首都カトマンズより身の丈に合った生活が営まれているのだろう。

ネパールを中心に、そしてきっかけとして世界の様々な国について知ろうとした今回の授業だが、自分が子どもたちに伝えた情報は自分が体験したことの範囲でしかないため、偏ったものであるかもしれないという危惧がある。また、子どもたちが調べた図書室の本も発行年月が20年も前のものもあり、情報が正確でないといった不安もあった。インターネットを使って最新の情報を手に入れることも考えたが、2年生の子ども達のコンピューターリテラシーではそれも難しかったため、子どもたちの身近にある図書室の本を活用することにしたのである。しかし、この身近な図書室の本によって20年前のネパールと現在のネパールの繋がりを感じることができたのである。私が受けたこの感動は子どもたちにも伝えられたのではないかと思う。図書室の世界と現実の世界が繋がっているという事実は図書館教育に取り組む私の勤務校において子どもたちの図書に対する意識を高めるうえで僅かなりともプラスになっ

たのではないかも考えている。

こうして取り組んできたことによって今はまだ幼い子どもたちが世界に興味をもち、様々な文化を受け入れる心を養うきっかけになれば幸いに思う。そしていつか世界中で地球やそこに住む人々のために活躍する人になってほしいというのが私の願いである。

参考資料

●書籍

- ・詳解現代地図(二宮書店)
- ・世界の子どもたち10ネパール/モヒタ夢の旅 渡辺暉・著(偕成社)
- ・旅の指さし会話帳25ネパール 野津治仁・著(情報センター出版局)
- ・わたしのネパール菓子 宇田和子・著(開文社出版)
- ・学校に行きたい! JICAリーフレット(JICA地球ひろば)
- ・にほんごをはなしましょう(ネパールにて調達した現地書籍)

●DVD

- ・平成19年度 教師海外研修 横裕美子・制作
- ・日本・ネパール国交樹立50周年記念
ネパール日本人会2006年忘年会実行委員会・企画





Nepal
02

ネパールに行ってきました ～サンガイ・ジッネ・コラギ～

渡部 陽子

愛媛県立宇和島中学校

- ◎実践教科等/生活科・学活(小学部) 総合的な学習の時間・道徳・学活(中学部) 国語総合(高等部)
- ◎時間数/16時間(小学部1・2年生/1時間 6年生/2時間 中学部/11時間 高等部/2時間)
- ◎対象学年/小学1・2・6年生 中学1～3年生 高校1年生
- ◎対象人数/計70人(明浜中学校 中学1・3年生を含む)



スケッチブックを使用した視覚への訴えも含め、五感を使った体験学習を上手に活用した構成だった。
地域とネパールのつながりが教材化されており、素晴らしい。

波多野 拓有
報告書①

渡部 陽子
報告書②

織田 祐恵
報告書③

横 裕美子
報告書④

安藤 千速
報告書⑤

田村 若貴
報告書⑥

川村 美千代
報告書⑦

福井 智史
報告書⑧

参考資料

◆カリキュラム

【実践の目的】 本校の児童・生徒たちは「今、自分が目にしたものの、それがすべて」であって、目で見ただものの背景にあるものや、物事と物事の関係などをとらえにくいという傾向が見られる。テレビやインターネットなどのメディアを通して、海外の「情報」を目にする機会はあるが、自分の生活と直接結びつけて考えていく体験は多いとはいえないのが現状である。

そこで、目で見、触れて、食して、話して、そして、自分の「ことば」で言語化させてみるという体験活動を取り入れていくことで、「自分と世界がつながっている」という意識を持たせたいと考えた。ネパールをフィルターとして、自分の国とは違う生活習慣や文化を知ることの楽しさを共有できるような方法を試みていくことにした。

また、「国際協力・国際支援」という概念を持たせるための第一歩として、自分を大切にすること、自分を生かすことと合わせて、「みんなのために生きる」ということを考えさせるための教材を取り入れてみたいと考えた。

◆授業の構成【小学部】

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ネパールに行ってきたよ (小学1・2年生)【生活科】 ネパールについての話を聞く	パワーポイントを使って、ネパールの紹介をする	・ワークシート(資料1) ・世界地図 ・パワーポイント ・スーツケース ・サリー・クルタ・トピ
1 2	ネパールに行ってきたよ (小学6年生)【学活】 ネパールについての話を聞き、学校の様子や水の大切さについて考える	パワーポイントを使ってネパールの紹介をする ネパールの初等学校の様子について理解する 公共水場の様子や水汲みの様子を理解する	・ワークシート(資料2) ・世界地図 ・パワーポイント ・サリー・クルタ・トピ ・チウラ(ネパールのスナック菓子) ・ネパールのインスタントラーメン

◆授業の詳細

1時限目 ネパールに行ってきたよ (小学1・2年生)

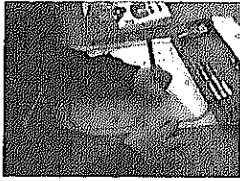
- ①地図を見て、日本とネパールの位置を確認する。
- ②ネパールの数字を書いて、読む。
- ③ネパール語で自己紹介をする。
- ④ネパールの国旗、日本の国旗、タイの国旗を紹介する。
- ⑤ネパールの服や帽子をかぶる。
- ⑥初等学校の子どもの様子を知る。
- ⑦ワークシート(資料1)を使って、授業の内容を振り返る。
- ⑧国語の教科担任による事後指導。(国語「覚えて書きましょう」:日記指導)

児童の感想より

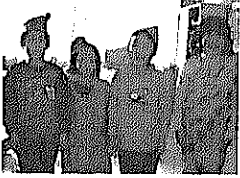
ネパールの服は日本と違うと思った。わたしはどの国も同じような服を着ていると思っていた。ご飯(学校の給食)は少ないと思った。日本は(給食が)いっぱいある。

サリーを着て楽しかったです。サリーはかわいいと思いました。ネパールは水が黄色で大変だと思いました。

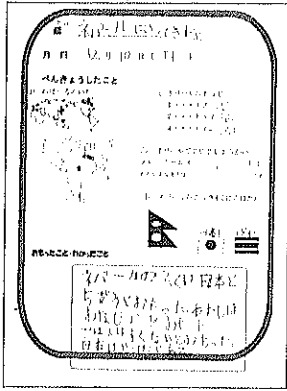




ネパール数字を書いたよ



ネパールの衣装を着てみたよ



資料1 ワークシート
「ネパールに行ってきたよ」

〈所感〉

小学部1、2年生の児童たちに、ネパールという国があること、自分たちの国とは違う生活をしている子どもたちがいることを伝えたかった。実際に使ったスーツケースを見せる、私自身が写っている写真を意識的に資料にするなどの準備をすることで、「日本から遠く離れた国」があるというイメージを持たせることができたのではないと思う。また、サリーやクルタなどの民族衣装を実際に着せてみることで、興味や好奇心をもたせることができた。また、小学部の先生方が積極的に授業に参加していただき、その場その場で適切な指導、助言をしていただいたことで、児童の理解が進んでいたように思う。

普段は授業をすることのない小学部の児童たちに対しての実践であったので、児童の実態が十分に把握できていなかった。そのこともあり、授業での時間配分がうまくいかず、ポイントが絞りきれなかったことが反省点としてあげられる。

1.2時 ■ **ネパールに行ってきたよ**
限目 (小学部6年生)

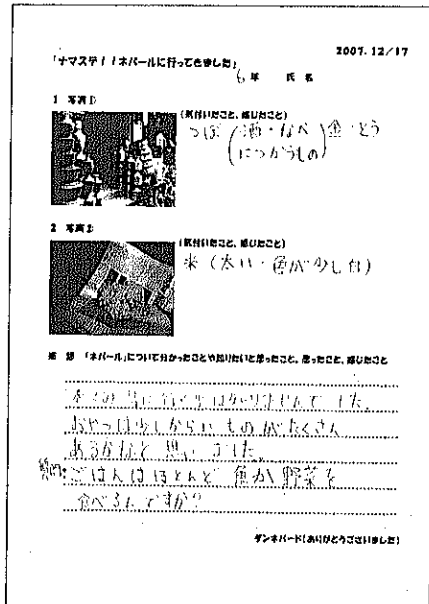
- ①地図を見て、日本とタイ・ネパールの位置を確認する。
- ②二枚の写真を見て、気付いたこと、感じたことをワークシート(資料2)に書き込み、発表する。
- ③タイの空港とネパールの空港の写真を見比べてみる。
- ④カトマンズの店で売られていた水瓶について説明する。
- ⑤初等学校の子どもの様子を知る。
- ⑥なぜ10人のうち6人しか中等学校に進めないのかについて考えさせる。
- ⑦ネパールのおやつ(チウラ)を食べる。
- ⑧ワークシートを使って、授業の内容を振り返る。



児童の感想より

毎日水汲みをするのが、大変だと思いました。朝と夜だけご飯で、昼はおやつでした。不思議だと思いました。私はおやつが大好きなので、昼だけたくさん食べたいと思います。ネパールの服がとてもかわいかったです。さわると少しざらざらと感じました。ネパールについて分かりました。ダンネパード!

小学生はみんな中学生になれると思っていたのに、中学生になれない子どもがいることを知ってびっくりしました。水汲み場に行くことは知りませんでした。ネパールのおやつを食べてみると、少し辛いものが入っているなと思いました。



資料2 ワークシート「ナマステ!!ネパールに行きました」

〈所感〉

小学部6年生は、昨年度ユニセフ募金の活動をしてきたこともあって、外国の話聞くことをとても楽しみにしているようであった。ネパールでは、安全な水を得ることがとても大変なことや、学校に通うことができない子どもたちがいることについても、理解が進んでいたようである。自分の生活と比較しながら、ネパールの生活の仕方に興味を示していることが分かった。

「なぜ、ネパールでは学校に行けない子どもがいるのですか」と児童の方から質問してくる場面もあった。児童の知りたいことについて、時間をとって説明する必要があると思った。今回の授業で扱えなかった内容については、3学期に授業をさせていただく予定である。

❖ 授業の構成 [中学部]

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	学活/タイ・カレーを作ろう	タイで買ってきたインスタントのカレーの作り方を調べて、調理する	・ワークシート(資料3) ・タイ・カレー(インスタント)3種類 ・日本のインスタントカレー ・マンゴーの缶詰(タイ産) ・ヨーグルト
3 4	総合的な学習/ネパールってどんな国	パワーポイントやDVDを使って、ネパールの紹介をする ネパールの文字を書く	・パワーポイント・DVD ・パソコン・写真 ・ワークシート
5 6	総合的な学習(明浜中学校との交流学習)/ナマステ!!ネパールってどんな国	青年海外協力隊についての話を聞く(推進員上田さん) パワーポイントやDVDを使って、ネパールの紹介をする ネパール語で自己紹介をする	・パワーポイント・DVD ・写真・サリー・クルタ・トピ ・ワークシート・自己紹介カード ・ガラムマサラ・クミン ・ヒマラヤ岩塩
7	ネパールの水事情と日本の協力	パワーポイントや写真、ビデオを見て、ネパールの水事情について知る ネパールの浄水場を紹介して日本の協力について考える	・パワーポイント・ビデオ ・写真・ペットボトル(2リットル) ・歯磨きセット、タオル
8	学活/ネパールのおやつを作ろう	カジュリ(揚げ菓子)とラッシー、チャイを作り試食する	・カジュリ(ネパール揚げ菓子)のレシピ ・薄力粉、上新粉、砂糖、揚げ油、牛乳、ネパール紅茶、ヨーグルト
9 10	道徳/サンガイ・ジッネ・コラギ ～「みんなのために生きる」とは～	「ヒマラヤの孤児マヤ」の一節P100～105を読む 宇和島市出身の岩村昇氏について紹介する 「サンガイ・ジッネ・コラギ」という言葉について考える JICA中学生エッセイコンテストの作品を読む	・「ヒマラヤの孤児マヤ」の一節P100～105 ・プリント資料(サンガイ・ジッネ・コラギ) ・パワーポイント ・JICA中学生エッセイコンテストの作品
11	道徳/世界の人々に貢献する日本人がいる	「心のノート」P118、119を読む ネパールで働く、青年海外協力隊・シニアボランティアの人たちの紹介をする 私たちにできることを考える	・「心のノート」 ・パワーポイント ・写真

波多野 拓有
報告書①

渡部 陽子
報告書②

織田 祐恵
報告書③

橋 裕美子
報告書④

安藤 千遥
報告書⑤

田村 芳貴
報告書⑥

川村 美千代
報告書⑦

福井 留史
報告書⑧

参考資料

❖ 授業の詳細

1.2 時限目 タイ・カレーを作ろう

- ①タイで買ってきたインスタントのカレーの作り方を調べる。(ワークシート資料3)(自分の好きな色のカレーを選び、英文で書かれた調理方法を翻訳する)
- ②調理方法に従って、それぞれのカレーを調理する。
- ③デザート(マンゴーラッシーとマンゴーのヨーグルトかけ)を作る。
- ④いろいろな味のカレーを食べ比べる。

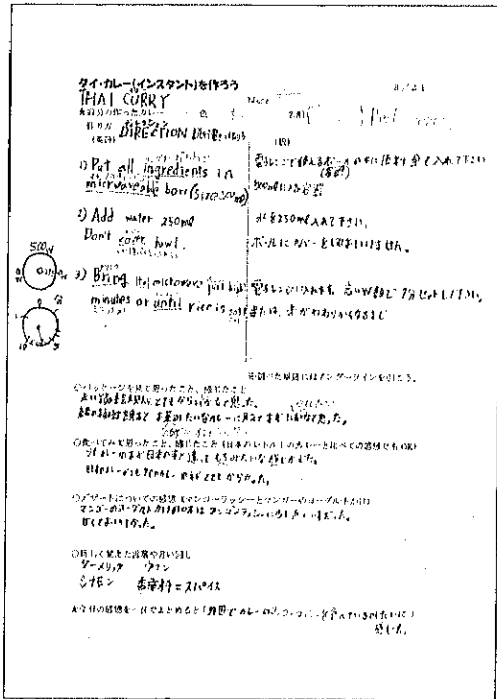
生徒の感想より

Red Curryを選んだ生徒

赤い箱を見たら、とても辛いのかなと思った。緑の箱を見ると、抹茶の味がするように感じて、まずいかもしいかなと思った。日本のカレーよりもタイのカレーの方がとても辛かった。マンゴーラッシーは甘くてとてもおいしかった。マンゴーという果物を初めて食べた。マンゴーという名前も知らなかった。

- 新しく覚えた言葉
ターメリック(ウコン)、シナモン、
香辛料=スパイス、マンゴー、ラッシー
- 今日の感想を一言でまとめると
「外国でカレーやマンゴーラッシーを食べているみたい」
「タイのカレーは口がヒリヒリするぐらい辛かった」





資料3 ワークシート
「タイ・カレー(インスタント)を作る」

3・4時限目 ネパールってどんな国

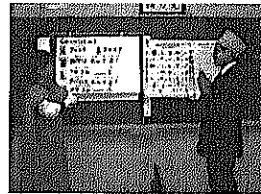
- ① パワーポイントやDVDを使って、ネパールの位置・首都・民族などを紹介する。
- ② 知りたいことや気がついたことを発表する。
- ③ インターネット「グーグルアース」を利用して、首都カトマンズを検索する。
- ④ ネパールの文字で、自分の名前を書く。インターネット「世界の文字で遊ぼう」のWebページを利用して、自分の名前をネパールの文字に変換する。
- ⑤ 自分の名前をネパール語で書いてみる。
- ⑥ サリ、クルタ、トピを試着する。
- ⑦ ワークシートを使って感想を書き、発表する。

生徒の感想より

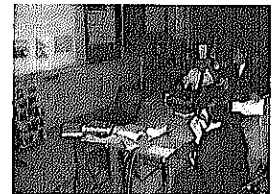
小学6年生のとき、ネパールの人が学校にこられて牛肉を食べないことや結婚したら顔に赤い印を付けることを教えてくれたことがあったのを思い出しました。ネパールのことが前よりも分かってよかったです。ネパールに実際に行ってみたいと思いました。

ネパールの文字を初めて書いた。難しいと思った。線の下にぶら下がっているような形だなと思った。

ネパールの子どもの笑顔が印象に残った。強い気持ちで生きているような気がした。クルタのスポンはウエストの部分をゴムではなくひもで絞めるようになっていた。とても大きく作られていた。ネパール文字はちょうちみみたいでかわいい文字だなと思った。



ネパール語で自己紹介



クイズに挑戦

5・6時限目 ナマステ!! ネパールってどんな国

- ① JICA国際協力推進員の上田さんから青年海外協力隊やJICAについての話をしていただく。
- ② フォトランゲージをする。
- ③ パワーポイントやDVDを使って、ネパールの紹介をする。
- ④ 二人組になってネパール語で自己紹介をする。
- ⑤ 三択クイズをする。
- ⑥ ネパールで「一番大切なものは何か」について考えさせる。
- ⑦ 宇和島市出身の岩村昇氏について紹介する。
- ⑧ JICA中学生・高校生国際協力エッセイコンテストについての呼びかけをする。

明浜中学校1年生

生徒の感想より

ネパールについてほとんど何も知らなかったけれど、話を聞いて写真を見て、ネパールについて興味を持てた。日本と似たようなところや全く違うようなところがあって、ネパールの国らしくていいなと思った。また、民族衣装も着ていただいたり、言葉も教えていただいたりして、ネパールのことが少しでも知れたのでうれしかった。

私が先生の発表を聞いて、一番心に残ったところは勉強(教育)が一番大事だと言った女の子の事です。日本では勉強(教育)が一番大切な人はあまりいないと思うし、私もそこまで大切ではありません。でも、ネパールや他の国など、十分な勉強ができないところでは、やはり大切なんだなと思いました。

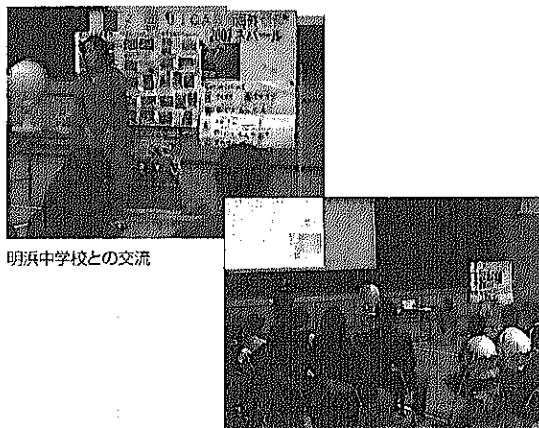
私たちの住んでいる日本では、ほとんど水に困ることはないけれど、ネパールではすごく水が足りないことを知りました。でも、せっかく日本にはたくさん水があるのに、ほとんど汚染されています。これはとてもいけないことだと思います。なので、水を大切にしたいなと思いました。そのために、自分にできることを少しずつしていきたいなと思いました。

生徒の感想より

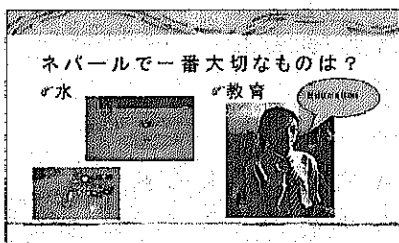
同じ世界の同じ中学生でも、こんなに違う生活をしている人がいるんだと思うと、とても驚きました。でも、きれいな水が飲めることや教育を受けることは、最低限のことだと思うので、それがすべての人に保障されるように、自分にできることをしていきたいです。

講演会を聞いてみて、私も青年海外協力隊に参加してみたいと思いました。ネパールの子が一番大切なことは、教育だと言っていたので、改めて考えてみると教育を受けられるのは幸せなことだと感じました。生活しているところや条件によって、価値観が変わっていくんだなあと思いました。ありがとうございました。

ネパールの子どもたちは、裕福な生活はしていないけれど、みんな楽しそうな顔をしていたのが心に残っています。自分にも何かできることがあるか、調べて実行したい。



明浜中学校との交流



7 時限目 ネパールの水事情と日本の協力

- ①パワーポイントや写真、ビデオを見て、ネパールの水事情について知る。
- ②ペットボトルの水を使って、歯磨き、洗顔を試してみる。
- ③22時間断水が続いたら、どんな生活になるかについて考える。
- ④ネパールの公共水場の大切さを理解する。
- ⑤水汲みがとても大切な仕事であることを理解する。
- ⑥ネパールの浄水場を紹介して日本の協力について考える。

生徒の感想より

公共水場に水を汲みに行くとか、水を運ぶとか、言われてびっくりした。遠く歩いて水を汲むのはしんどいだろうと思った。はやく、機械を使ってきれいな水をたくさん作れるといいと思った。

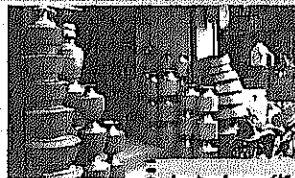
料理や食器洗いはどうしているのかなと思った。

水道の水が飲めないのも、一度わかしてさました水を飲んでいることを初めて知った。

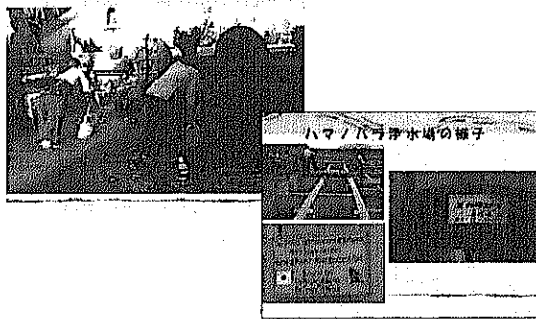
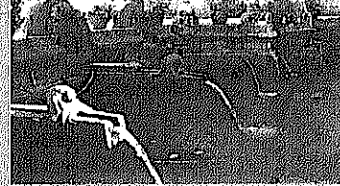
歯磨きも水道の水でできないのは大変だと思う。

ネパールのいろいろなところで日本の機械や日本の人ががんばっていることが分かった。

何に使うのだろう？



ヒント 街の中で見つけたよ



8 時限目 ネパールのおやつを作ろう

- ①カジュリ (揚げ菓子) の材料をそろえ、レシピの計量をする。
- ②カジュリを作る。
- ③ラッシー、チャイの材料をそろえ、レシピの計量をする。
- ④ラッシーとチャイを作る。
- ⑤試食する。
- ⑥ネパール菓子の特徴について、簡単に説明する。
- ⑦感想を発表する。

報告書① 波多野 拓有

報告書② 渡部 陽子

報告書③ 森田 祐恵

報告書④ 橋 裕美子

報告書⑤ 安藤 千穂

報告書⑥ 田村 芳貴

報告書⑦ 川村 美千代

報告書⑧ 橋井 留史

参考資料

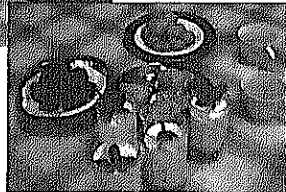
生徒の感想より

カジュリは日本のドーナツの味に似ていた。少し焦がしてしまったけれど、焦げたカジュリの方がカリカリしておいしかった。チャイにはたくさん砂糖を入れることが分かった。

チャイは苦手であり飲みなかつたけれど、ラッシーはのどが潤っていたのでおいしかった。ネパールのお菓子の本を見ると、油で揚げたもの、牛乳を使うものが多いことが分かった。



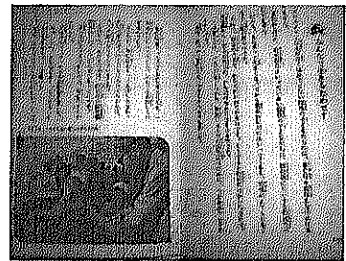
カジュリ作り、油で揚げて出来上がり



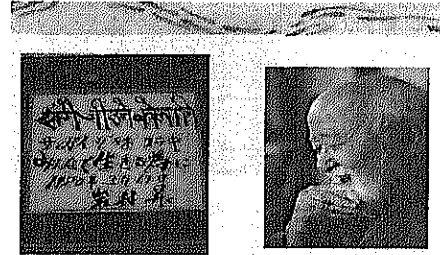
生徒の感想より

ネパールの青年は、お金のためではなく「みんなで生きるため」に病気にかかったお婆あさんを背負って歩いたのだということが分かった。ネパールの国の人々は、お金のためとか、自分だけのためとかよりも、みんなのためということを大切にしているのだと思った。つらいことも我慢して、みんなのために生きるということは、ネパールでは日本より当たり前のことなのかも知れないと思った。

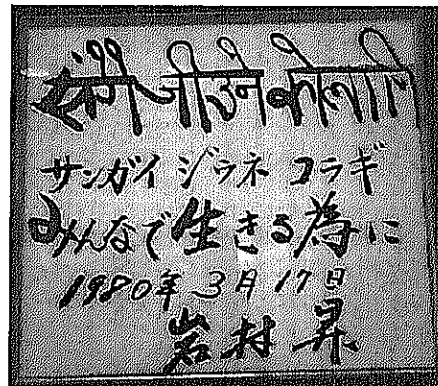
旅人の青年はお金がほしくてやったのではなくて、みんなが生きるためにやったのですごいなあと思いました。だから、一人一人に与えられた命は大切にしないといけないんだなあと思いました。「サンガイ・ジュネ・コラギ」というネパールの言葉を初めて知りました。聞いたことのない言葉だったけれど、すばらしい言葉だなと思いました。



『ヒマラヤの孤児ヤマ』 岩村史子著・福成社



資料4:岩村昇氏について



サンガイ・ジュネ・コラギの色紙

9・10 時 限 目 サンガイ・ジュネ・コラギ
～「みんなのために生きる」とは～

- ①「ヒマラヤの孤児ヤマ」の一節P100～105を読む。
- ②ネパールの青年は何のために病気の老婆を背負って山道を歩いたのかを考えさせる。
- ③プリントを読む。
- ④ネパールの少女の「忍耐」とはどのようなものかを考えさせる。
- ⑤十四歳の少女の「思いやり」はだれに教わったものなのかについて自分の考えを持つ。
- ⑥「サンガイ・ジュネ・コラギ」という言葉について考える。
- ⑦パワーポイントを使って、宇和島市出身の岩村昇氏について紹介(資料4)する。
- ⑧JICA中学生エッセイコンテストの作品を読む。
- ⑨「自分たちにできることは何か」について考える。
- ⑩感想を書き、発表する。

11 時限目 世界の人々に貢献する日本人がいる

- ①「心のノート」P118、119を読む。
- ②ネパールで働く、青年海外協力隊・シニアボランティアの人たちの紹介をする。
- ③インターネットや図書室の本を参考にして、国際協力への参加方法について理解する。
- ④「私たちにできること」について模造紙にまとめる。

生徒の感想より

中1の総合学習でユニセフの募金活動をしたり、学習発表会の劇で世界の子どものたのびの活動をしたりしたけど、また、同じような活動があればやってみたいと思う。去年小学部がクッキーを売っていたみたいなのをやればいいと思う。

ネパールで働く日本人は、とてもネパール語が上手だと聞いて驚いた。私には何が出来るのだろうかと考えたけれど、自分でできることを考えるのは難しかった。また、みんなで、何かやっていけるといいなと思った。

〈所感〉

総合的な学習の時間では、中学2・3年生を対象にして授業を行った。これまでに、国際理解教育の一環として、ネパール、韓国、中国、バングラデシュからの留学生と交流している経験もあり、生徒たちは外国のことを学習することに、興味・関心を持っていることが分かった。「ネパール」をキーワードに、国際理解教育を視点とした授業を構成してみたが、内容を盛り込みすぎて、一般的な知識の伝達にとどまってしまった。また、体験活動を多く取り込もうとしたために、授業時間をオーバーしてしまったこと、予定している内容を十分に理解させることができなかったことなどが反省点としてあげられる。

担任をしている中学3年生を対象にした授業では、総合的な学習の時間以外にも道徳や学活の時間を利用するなどして、授業時間を確保することができたと思う。ただ、参加型の授業展開をするには、クラスの生徒の数が2名と少ないこともあり、十分な取り組みができなかった。

授業の構成 [高等部]

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	国語総合 ネパールってどんな国	パワーポイントやDVDを使って、ネパールの紹介をする フォトランゲージをする ネパール語で自己紹介をする	・パワーポイント ・DVD ・写真 ・サリー、クルタ、トピ ・ワークシート ・自己紹介カード ・ガラムマサラ、クミン ・ヒマラヤ岩塩
2	国語総合 ネパールの生活・習慣／調べ学習	インターネットを使って、自分が興味を持った生活・習慣について調べる 分からない語句、言い回しについて説明する	・インターネット ・模造紙 ・国語辞典

授業の詳細

1 時限目 ネパールってどんな国

- ①フォトランゲージをする。
- ②パワーポイントやDVDを使って、ネパールの位置・首都・民族などを紹介する。
- ③分かったことや知りたいことについてまとめる。
- ④感想を書き、発表する。

生徒の感想より

ネパールの段々畑の写真

・最初の写真を見たとき、日本のみかんとは色が違うなと思った。日本のみかんはオレンジ、写真のみかんは黄色い。
・段々畑になっているので、八幡浜市や吉田町の写真だと思った。

牛のふんを乾かしている写真

・ご飯を炊くときの鍋のふただと思った。
・クッキーやおせんべいみたいな食べ物ではないかなと思った。
・何に使うものか考えてくださいといわれたけれど、分からなかった。
・帽子だと思った。

「ネパール」について分かったことや知りたいと思ったこと

・日本とは違う数字を使っていることが分かりました。ネパールの「ナマスデ」というあいさつの言葉は、顔のところで手を合わせてということが分かりました。ネパールのかけ算九九の表を見ると、20の段までありました。覚えると便利だろうなと思いました。自分だったら、覚えるのは難しいと思いました。でも、覚えてみたくなりました。ネパールでは、手でご飯を食べるということを知りました。日本とはいろいろ違っているなと思いました。

報告書① 渡辺野拓有

報告書② 渡部陽子

報告書③ 織田祐恵

報告書④ 瀬谷美子

報告書⑤ 安藤千速

報告書⑥ 田村芳貴

報告書⑦ 川村英千代

報告書⑧ 福井智史

参考資料



どこの写真だろう



何を干しているのだろう 何につかうのだろう

2 時 限 目 ネパールの生活・習慣／調べ学習

- ①インターネットを使って、自分が興味を持った生活・習慣について調べる。
- ②分からない語句、言い回しについて説明する。

〈所感〉

生徒の実態に応じて、資料提示の仕方や発問の工夫を試みたことで、生徒の反応はある程度のものが得られた。理解しにくいと思われる場面でも、自分なりに考えてみようとしている様子が見受けられた。しかし、授業における目標の到達度は充分ではなかった。

調べ学習は授業時間の1時間では終わらなかった。その日の放課後の時間を使って、自分でまとめたという模造紙を生徒の方から見せにくるなど、私の方では指示していないことについて、自分で学習しようとする姿勢が見られた。このことを評価したいと思った。

今後は、生活や習慣、文化の何について調べるかを明確にして、教科書の教材文の指導目標とリンクさせた授業づくりを考えていきたい。

◆成果と課題

成果として挙げられるのは、総合的な学習時間における明浜中学校との交流学习の時に、推進員の上田氏に参観いただき、青年海外協力隊やJICAの活動についてお話ししていただく機会を得たこと、本来なら中学1年生との交流であるところを、明浜中学3年生は本年度「国際理解」をテーマに総合的な学習を行っているということで、中学1・3年生を対象に授業をさせていただくことができ、他校の生徒や先生方に参加していただくことができたことである。

また、自校での授業をするにあたっては、各部所属の先生方が積極的に授業に参加していただき、児童生徒の活動に適切な支援をしていただき、内容の理解や定着を図る手だてをしていただくことができたことである。それぞれの部全体で関わっていただき、実践することができたことで、少人数ではあるが、みんなで活動している、みんなで考えているという雰囲気作りができたように思う。

今回の「ネパール」について学習することを通して、児童生徒の見る力のすごさに驚いている。(タイとネパールの空港の写真を提示したことで、それぞれの国のイメージを児童なりにつかむことができていたこと、DVDを見た後「裸足の子どもがいた」「スカートの中に入っていたものは、なに?」「制服を着ていない子どもがいるのは、なぜ?」「道路に信号はあるのか?」といった疑問や問題意識を持つことができていたことなど) 視覚的

な教材を工夫することの大切さを改めて実感することができた。

課題として、中学3年生対象の道徳「サンガイ・ジュネ・コラギ〜「みんなのために生きる」とは〜」では、岩村昇氏が書かれた色紙(「サンガイ・ジュネ・コラギ」)の写真(宇和島東高校の校長室にかけてあるもの)を提示する、「ヒマラヤの孤児マヤ」という本の一節を読ませる、JICA中学生エッセイコンテストの文章を(三瓶中学校の生徒作文)を読ませるなどの活動を通して、自分の生活と、「ネパール」とを結びつけて考えられるようになってほしいと考えて実践したが、観念の押しつけ的な内容になってしまったのではないかと考えられる。意識の啓発につなげていくには、まだまだ改善していく必要があると感じている。

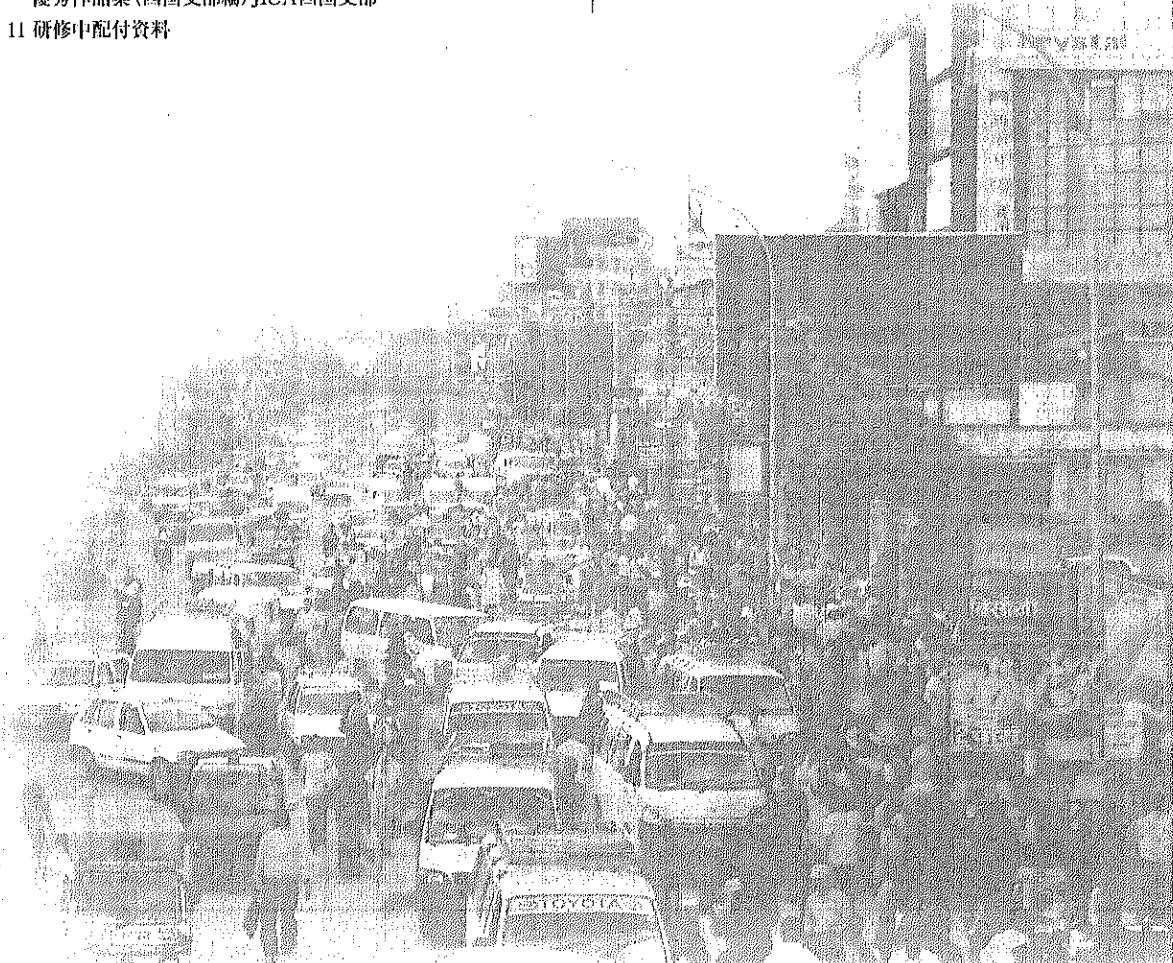
私自身が、見てきたそして感じてきた「ネパール」を生徒たちに伝えたいと考えて、授業実践を試みた。しかし、伝えたいことがたくさんあり、情報が精選できないまま授業を行ってしまったことや、「何を伝えたいのか」ということの「何」にこだわりすぎてしまうと、本校の生徒たちの実態として、その周辺にあるものに気付かせることができないまま終わってしまうという危惧もあり、結果的には全体がガイダンス的な内容に終始してしまったことを反省している。全体を通して「ネパール」の雰囲気を感じて、生徒たちが自分なりに「ネパール」を受け止め、興味や好奇心をもって授業に参加するこ

とができたということにとどまってしまったと感じている。

今後は、今回の実践を踏まえ、一つ一つの課題を明確にして、より分かりやすい、そして楽しい国際理解教育・開発教育につながる指導方法を探っていきたいと考えている。

📖 参考資料

- 1 パソコンで利用したHP等
<http://www.geocities.jp/p451640/moji/>
グーグルアース
- 2 「ヒマラヤの孤児マヤ」 岩村史子著 偕成社
- 3 「世界がもし100人の村だったら」 池田香代子
再話 マガジンハウス
- 4 「世界がもし100人の村だったら④子ども編」 池田香代子
マガジンハウス
- 5 「私のネパール菓子」 宇田和子 開文社出版
- 6 「心のノート 中学校」 文部科学省
- 7 「旅の指さし会話帳 ネパール」 野津治仁著
情報センター出版局
- 8 「NHKテレビ アジア語楽紀行 旅するネパール語」
監修・執筆 野津治仁 日本放送出版協会
- 9 松山東高校生徒会誌「青柳」第27号平成2年
矢野守 サンガイ・ジッネ・コラギ
- 10 JICA国際協力 中学生・高校生エッセイコンテスト2006
優秀作品集(四国支部編) JICA四国支部
- 11 研修中配付資料



報告書① 波多野 拓有

報告書② 渡部 陽子

報告書③ 織田 祐恵

報告書④ 横 裕美子

報告書⑤ 安藤 千蓮

報告書⑥ 田村 芳貴

報告書⑦ 川村 美千代

報告書⑧ 福井 智史

参考資料